

会館だより

2011年 9月号 第267号



財団法人日中友好会館

「会館だより」 9月号の内容

行事案内

《第21回中国文化之日》

- ・大草原からの響き 2011
—フルンボイル民族歌舞劇院公演と
モンゴル族の暮らし展

《日中友好後楽会》

- ・中国旅行
- ・談話会・交流夕食会

活動記録

- ・後楽寮生長野県下ホームステイ感想
- ・平成23年度中国青年代表団第1陣が来日
約300名が各分野で交流
- ・平成23年度中国国家行政学院
公務員訪日研修団が来日
今年で交流13年目

会館行事と人の動き

表紙

ぼとうきん
『馬頭琴』

(第21回中国文化之日
「大草原からの響き 2011
—フルンボイル民族歌舞劇院公演と
モンゴル族の暮らし展」より)

催事の詳細は、本誌2ページの「行事案内」
をご覧ください。

行事案内

第21回中国文化之日

◆大草原からの響き 2011 —フルンボイル民族歌舞劇院公演と モンゴル族の暮らし展



フルンボイル民族歌舞劇院

主 催: (財)日中友好会館
後 援: 中華人民共和国駐日本国大使館、
(社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、
日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、
(財)日中経済協会、(社)日中協会、
日本華僑華人聯合總會

●公演「大草原からの響き2011 —フルンボイル民族歌舞劇院公演」

日 時: 10月 21日(金)19:00～、
22日(土)13:30～、18:30～
23日(日)13:30～ 全4回
(30分前に開場、上演時間は1時間程度)
出 演: フルンボイル民族歌舞劇院
会 場: 日中友好会館地下1階大ホール
入場券: 前売り1,000円 全席指定
「チケットぴあ」にて発売中
ぴあ予約専用電話: 0570-02-9999
Pコード: 148-261
(空席があれば当日券を1,200円にて販売)

●展覧会「大草原からの響き2011 —モンゴル族の暮らし展」

会 期: 9月30日(金)～10月23日(日)
会 場: 日中友好会館美術館
休館日: 水曜日 入場料: 無料
時 間: 10:00～17:00
(公演期間には上演後まで開館)

イベント:

「民族衣装を着てみよう」

10月1日(土)、8日(土)、15日(土) 13:00～13:30

「ホーミー講座」10月21日(金) 15:00～

(申し込み不要。展覧会場へ直接ご来場下さい)



ゲル(移動式住居)

2007年に大好評を博し、再演の要望が数多く寄せられた、モンゴル族の民族芸能公演を、今年もご紹介します。

当財団が毎年秋に行なっている、中国の文化や芸能を紹介する催事「中国文化之日」は、今年で21回目を迎えます。本年は「大草原からの響き 2011」と題し、モンゴル族の民族芸能公演と、文化を紹介する展覧会を開催します。

今回の公演は、内モンゴル自治区の北東部に位置するフルンボイル市から来た「フルンボイル民族歌舞劇院」によるもので、歌や踊り、ホーミー、オルティンドー、馬頭琴など、大草原の広い空と大地を想わせる演目をお送りします。展覧会は「モンゴル族の暮らし」をテーマとして、雄大な自然の中に生きるモンゴル族の、暮らしや文化に関する展示を行い、移動式住居ゲルの実物が登場するほか、民族衣装試着体験などのイベントも実施します。本催事は、公演と展覧会を通じて、中国の大自然と、そこに暮らす人々の息吹を感じていただけるような内容となっております。

ご来場を心よりお待ちしております。

【お問合せ】(財)日中友好会館 文化事業部
電 話: 03-3815-5085
e-mail: bunka@jcf.or.jp

日中友好後楽会

◆中国旅行

中国旅行の申込締切を8月末日とさせていただきますが、参加人数に余裕がある場合は、引き続きお申込みを受付けておりますので、ご検討中の方はお電話にてお問い合わせください。

日程：11月11日（金）～11月17日（木）
6泊7日

行先：海南島（海口・三亚）、広東省（広州・開平）

内容（予定）：

- 1日目：成田より国際線にて広州へ移動
- 2日目：広州より海口へ国内線にて移動、海口市内見学（海瑞墓、五公祠、老街など）
- 3日目：海口より列車にて三亚へ移動、三亚市内見学（海南島最南端天涯海角、南山寺、自由市場など）
- 4日目：終日、三亚市内見学（胡蝶ドーム、亜龍湾ビーチ、リー族の村など）
- 5日目：三亚より国内線にて広州へ移動、広州市内見学（鎮海楼、西漢南越王墓博物館、陳氏書院など）
- 6日目：世界遺産 開平の望楼と村落群を見学
- 7日目：広州より国際線にて成田へ帰国

※元後楽寮生との交流夕食会は海南島または広州にて開催予定。

参加費用：会員 ¥181,000/1名
（2人一部屋利用の場合、
国際線燃油チャージ代別）

詳細はお問い合わせください。

海南島へは後楽会旅行として初めての訪問となります。11月は海南島のベストシーズンに入りますので、ぜひこの機会にご参加ください。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林陽子

電話：03-3811-5305

FAX：03-3811-5263

メールアドレス：bunka@jcf.or.jp

◆談話会・交流夕食会

9月の予定は、別途お知らせいたします。

活動記録

◆後楽寮生長野県下ホームステイ感想

2011年7月26日から28日まで、私と劉朝陽さんは長野県伊那市の小原茂幸先生のお宅へお邪魔してホームステイをしました。短い3日間でしたが、伊那の人々と美しい大自然が、私たちにとって忘れられない、いい思い出になりました。

26日の午後1時半に新宿駅からあずさ17号特急に乗って3時半ごろに岡谷駅に着きました。日中友好協会伊那地区本部の三澤一志局長が出迎えに来てくださいました。それから、車に乗って伊那市へ行き、途中三澤さんから地域の歴史、人物、山川などについていろいろ教えていただきました。三澤さんの話を聞いて、優しく、ユーモアに富んだ方だとわかりました。目に映るのは美しい自然と緑の世界。見渡す限りの稲田、高い山岳が霧の中で神様のように見えて、天竜川がくねくねと続き、太平洋へと流れ込んで行きます。この美しさに酔って、ここは人間仙境、「世外桃源」のように思いました。

車で大体一時間位で伊那市に着きました。ホストファミリーの小原先生と母親の小原明石(83歳)さんが市役所の前で私たちを待っていました。挨拶のあと、市役所の会議室で白鳥孝市長に会いました。白鳥市長のお話によりますと、伊那市は長野県の南部に位置する伊那谷北部の市であり、平成18年(2006年)3月31日に、旧・伊那市と高遠町及び長谷村が新設合併し、新たに伊那市となって、面積207.64km²、人口およそ7万人。東に南アルプス、西に中央アルプスがそびえる中、中央部を北から南へ向かって天竜川が縦断して、南アルプスの塩見岳東峰(3052m)が一番高いそうです。特に高遠の桜と信州のお蕎麦は日本で一番有名で、伊那市は平成6年(1994年)11月22日に中国北京市通州区と友好都市を締結したこともわかりました。座談会の後、市長と写真を撮り、地元のテレビ

局のアナウンサーからインタビューを受けました。町に対するイメージはどう?とかいろいろ聞かれましたが、日本語がまだまだ不自由なものですから、言いたい事が充分表現できなかったのは、今回の訪問の唯一の残念なことでした。最後に、市長からイーナちゃんという可愛い伊那市のイメージキャラクターをプレゼントとしていただきました。



前列：劉朝陽さん、小原明石さん、筆者
後列：三澤一志局長、白鳥孝市長、小原茂幸次長

市役所をあとにして、日中友好協会伊那地区本部の小坂樫男(名誉会長、元市長)、竹松成就(理事長)、有賀士郎(理事)、北原正男(理事)、三澤一志(事務局長)、小原茂幸(事務局次長)、小原明石さん、山崎大行(市役所総務部企画情報課課長)、小池温(市役所役員)さんたちと信州INAセミナーハウスで第21次中国留学生ホームステイ歓迎会に参加して、いろいろ交流をしました。それから、6時頃から懇親会でした。懇親会で皆歌を歌って楽しかったです。

8時頃小原さんの奥さん(公務員)の車に乗って、駒ヶ根市にあるお宅へ帰りました。おじいさん、おばあさん、小原先生と奥さんが4人で暮らしている家族です。二人の子供さんは松本と北海道の大学で勉強しています。小原茂幸先生は1953年長野県駒ヶ根市生まれ、法政大学経済学部卒。伊那自動車教習所で合宿教習・宿泊業・結婚式場等の立上げ運営に携わり、現在業務執行役員営業部部長。日中友好協会事務局次長のほか、

駒ヶ根市環境市民会議座長、「駒ヶ根花と緑と水の会」事務局長等を務め、地域活性化にも積極的に取り組んでいらっやっています。

27日の朝おばあさんと奥さんの作った美味しい朝食を食べてから、雨の中で小原先生と中央アルプスの駒ヶ岳(2967 m)まで登りました。岳の上に雪があって、天に届くほどの大木、溪谷などたくさんありました。山を下りてから、天竜川に行きました。昼ご飯の後、小原先生は午後仕事があるので、そのかわりに三澤先生が来て、寒天パパ工場、高遠城址公園、伊那市立高遠町歴史博物館、美和湖ダムなど伊那市のあちこちに案内してくださいました。市に戻ってから小原先生の勤めている伊那自動車教習所を見学しました。午後5時頃小原先生のお宅に帰って、お爺さんご自身で作った野菜、花、池、家畜を觀賞した後、小原先生と一緒に温泉へ行きました。温泉に入って、一日中の疲れが取れました。すごく気持ちよかったです。温泉に入ることには人間にとって、世の中でこの上ない幸せですね。



小原先生の奥さんと母親

夕食の時、おばあさんと奥さんがたくさんのお料理を作りました。おじいさんの小原秀広(85歳)さんは元駒ヶ根郷土研究会の役員で、地元の歴史・文化の研究で活躍して、功績が極めて顕著である方です。中国の文化と日中仏教交流史にとっても趣味があって、

「日本の文化の源は中国文化」と言われました。皆一緒に歌を歌って、踊りを踊って楽しい時間を過ごしました。小原先生のご家族は皆優しくて、日中友好交流の為に自分の愛を捧げています。



父親が民謡を歌って、母親とお子さんが踊る

28日の朝食の後、おじいさんの小原秀広さんが自分で車を運転して、大雨の中で光前寺という千年歴史がある古いお寺を案内してくださいました。小原秀広さんはこのお寺の専門家です。お寺と民間慣習についての論文も発表されたそうです。10時頃、小原先生の家に戻って、そこからご家族と別れました。雨の中で、母親の小原明石さんが涙を流し、車が見えなくなるまで見送りの姿にとっても感動させられました。帰る途中、小原先生が駒ヶ根養命酒工場、信州大学農学部「食と緑の科学資料館」、仲仙寺、諏訪湖(岡谷市にある)を案内してくださいました。午後3時半ごろ小原先生と別れて、電車に乗って東京に戻りました。夢みたくない3日間でした。

短い3日間でしたが、日本の歴史と文化、人々の豊かな生活、お客に対する暖かい気持ちなどを充分感じられたと思います。中日の永遠の友情は民間交流にあります。私は、その友情のために頑張ります。

さようなら、神様の故郷。さようなら、イーナちゃん!

(東京大学 東洋文化研究所 那仁朝格図)

◆平成23年度中国青年代表团第1陣が来日 約300名が各分野で交流

「21世紀東アジア青少年大交流計画（日中21世紀交流授業）」の一環として、6月29日から7月6日まで平成23年度中国青年代表团第1陣（総団長＝倪健・中華全国青年連合会常務委員、中国国際交流協会副秘書長）が来日した。一行は青年指導者68名、経済31名、メディア32名、環境保護（生態保護対策）34名、映画、テレビ関係者35名、対日観光関係者34名、教育関係者35名、司法関係者35名で構成された計304名。同団の派遣は中華全国青年連合会、受け入れは当財団が担当した。司法関係者分団は当財団が実施、その他の分団は、それぞれ他団体に実施を委託した。



歓迎レセプションで
倪健総団長(左)と伴野豊外務副大臣(右)

東京滞在中の6月30日夕方には、代表団の歓迎レセプションを開催。江田五月・法務大臣、環境大臣、日中友好会館会長、伴野豊外務副大臣、近藤昭一環境副大臣をはじめ、7名の国会議員、多くの来賓、受入団体関係者が出席し、賑やかに行われた。また、大学生中心のエイサーグループ「新風エイサー」が、沖縄の伝統民族舞踊を披

露。南国の風をおもわせる緩やかな三線の調べと唄、そして力強い太鼓の響きは一同を魅了した。代表団からは、歌とチャン族の伝統舞踊の3演目が披露され、いずれも華やかな舞台となった。

各分団は東京及び福井、愛知、兵庫、新潟、山梨、京都、大阪、長野で、視察・交流に参加。それぞれ分団のテーマに沿ったセミナーや日本青年との交流会等を通し、日本理解を深めた。



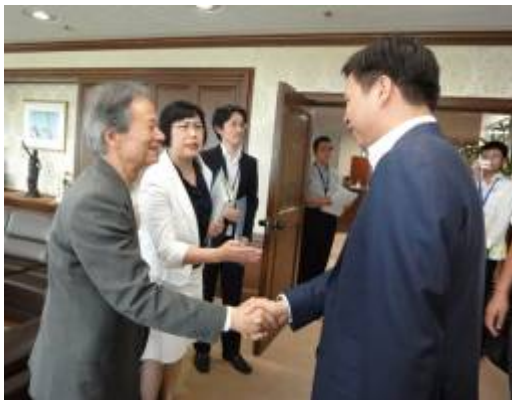
「新風エイサー」による沖縄伝統舞踊

・司法関係者分団が日本の若手司法関係者や 一般市民と交流

当財団が受け入れを担当した司法関係者分団（分団長＝羅智波・四川省党委員会政法委員会政治部副主任、一行35名）は、最高人民法院、最高人民検察院幹部をはじめ各地の司法関係者により構成され、東京都と愛知県を訪問した。

専門交流として、東京で法務省と最高裁判所を訪問した。法務省では江田五月・法務大臣を表敬訪問し、アットホームな雰囲気の中写真撮影をし、団員全員が大臣と握手を交わした。最高裁判所では法廷見学とブリーフに参加。質疑応答でさまざまな質問が出され、日本と中国の司法制度の違い

について理解を深めた。また、日本弁護士連合会、日中法律家交流協会会員と懇談の機会も得、日本の弁護士制度の紹介を受けたり、若手弁護士と交流昼食会を行い、活発な意見交換を行った。愛知県では名古屋刑務所を訪問。概要説明を受けた後、受刑者の宿舎、作業場等の戒護区域を視察した。普段は入ることのできない戒護区域内部の説明に、団員たちは熱心にメモを取っていた。



法務省表敬訪問
江田五月法務大臣に温かく迎えられる

このほか、愛知県では長久手町国際交流協会ボランティアとの交流会に参加した。2005年に愛知万博の開催地となった長久手町にある「愛・地球博記念公園」をボランティアと散策しながら、交流や写真撮影を楽しんだ。その後は浴衣や法被を着てもらい、七夕飾りや盆踊りを体験し、日本の夏祭りの雰囲気を楽しんだ。

また、名古屋市内の南山大学訪問では、学生と座談会を行った。就職や学校生活のことなどを質問し、日本の一般の大学生の考え方を知る機会となり、また大学生側からも団員に、日本に来た印象や中国と日本の違いは何か、などの質問が出た。最後は

全員で「世界に一つだけの花」を中国語で合唱し、楽しい交流会となった。

このほか、滞在中には中央防波堤埋立処分場、明治神宮、陶磁資料館、リニモ体験乗車、トヨタ元町工場など、日本の環境、歴史、文化、科学技術、経済等に関する参観・体験を行い、専門分野以外にも幅広く日本を理解する訪日プログラムとなった。

7月5日に東京で行われた全分団合同の歓送報告会には、張成慶中華人民共和国駐日本国大使館参事官や遠山茂外務省アジア大洋州局中国・モンゴル課地域調整官らが出席。各分団から集められた日本滞在中の交流写真を纏めたスライドショー上映は大変盛り上がり、会場が一体となった。また中国側の団員が活動の成果を報告、パフォーマンスも披露し、盛会のうちに訪日を締めくくった。

大きな病気や怪我をする団員もなく、代表団一行は8日間の日程を終え、7月5日全員無事に帰国した。本事業の実施にご協力いただいた外務省、中国大使館、受入関係機関等の皆様に厚く御礼申し上げたい。



長久手国際交流協会のみなさんと浴衣で記念撮影

(総合交流部)

◆平成 23 年度中国国家行政学院
公務員訪日研修団が来日
今年で交流 13 年目



日本の国家公務員との意見交換会

6月28日から7月5日までの日程で、平成23年度中国国家行政学院公務員訪日研修団（団長＝黄加元・中国国家行政学院研究生部副司長級クラス主任）が来日した。一行は、同学院の幹部3名、公共管理学修士(MPA)コースの研修員20名からなる計23名で、いずれも中国の各行政単位で重要な地位を占めることが見込まれている中堅幹部公務員で構成された。

本団招聘事業は今年で13年目を迎え、平成19年度より、外務省が推進している「21世紀東アジア青少年大交流計画(日中21世紀交流事業)」の一環として実施している。

「日本のコミュニティ発展の状況」をテーマに

研修団一行は、東京、岡山を訪問し、日本の公務員制度についての講義や公務員との交流に参加したほか、今年度の訪日研修テーマ「日本のコミュニティ発展の状況」に基づく講義、視察、企業・大学の訪問等、さまざまなプログラムに参加し、包括的な対日理解を深めた。

一行は、相互交流を続けている人事院による「日本国家公務員の制度と倫理」に関する

講義を受けた。その後、日本の青年国家公務員との意見交換会に参加し、互いの国情は異なるものの、同じ公務員としての共通の課題や参考にすべき方策などについて、活発に意見を交わした。

また、6月29日に開催された当財団主催の歓迎レセプションは、江田五月法務大臣・環境大臣・財団法人日中友好会館会長、孫美嬌中華人民共和国駐日本国大使館政治部参事官らが出席し、賑やかに行われた。徳永久志外務大臣政務官が歓迎の挨拶を述べ、日中の相互理解と協力関係を深める上での本事業の意義を強調した。同日には、外務省による日中関係セミナーを受講し、日中の戦略的互惠関係の構築に向けての取り組みや、日本の政治体制について学んだ。

さらに一行は、研修テーマ「日本のコミュニティ発展の状況」に基づき、総務省による「日本の地方行政のあらまし～市町村を中心に」のブリーフィング、農林水産省による「日本の農村コミュニティ発展における政策展開」のブリーフィングを受けたほか、富士通(株)、早稲田大学を訪問し、講義や懇親会に参加した。7月4日には岡山市にてJA岡山と岡山市連合町内会を訪問。実際に農村コミュニティや地域コミュニティを視察し、交流することを通じ、日本のコミュニティがどのようなものか、より一層の理解を深めた。

研修団は全ての研修プログラムを終了し、7月5日に関西空港より帰国の途についた。本訪日研修団の受け入れにご協力下さった外務省、人事院、富士通(株)、早稲田大学大学院公共経営研究科、JA岡山、岡山市連合町内会、岡山市市民局国際課、関係団体・企業の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

会館行事と人の動き 7/1～31

● 会館行事

- 6/28～7/ 5 ▶「平成23年度中国国家行政学院公務員訪日研修団」来日、7/4同団歡送報告会
- 6/29～7/ 6 ▶「平成23年度中国青年代表团第1陣」来日、7/5同団歡送報告会
- 7/ 7 ▶ 後楽会 気功・中国画教室
- 7/ 9 ▶ 後楽寮25周年記念祝賀会
- 7/14 ▶ 後楽会 談話会「体にいい水、おいしい水」講師:楊禹
- 7/21 ▶ 後楽会 気功・中国画教室
- 7/24～7/30 ▶「平成23年度中国社会科学院青年研究者代表团第1陣」来日
7/25同団歡迎レセプション、7/29同団歡送報告会
- 7/26～7/28 ▶ 後楽寮生長野県下ホームステイ
- 7/28 ▶ 「平成23年度中国青年代表团第2陣」実施団体事前説明会
- 7/31～8/ 6 ▶ 「平成23年度中国青年メディア関係者代表团第1陣」来日

● 来館・訪問・面会

- 7/ 1 ▶ 全青連 倪健主席助理一行歡迎宴（谷野副会長、村上理事長他）
- 7/ 4 ▶ 財日本卓球協会 木村興治副会長来館（村上理事長他）
- 7/ 5 ▶ 白扇書道会 飯島和子副会長（村上理事長他）
- 7/ 6 ▶ 秋岡栄子女史来館（村上理事長他）
- 7/11 ▶ 吉林省人民对外友好協会 鄭剛秘書長一行 来館（村上理事長、武田常務理事、王理事）
- 7/13 ▶ 榊中央商会 平戸章社長来館（村上理事長他）
▶ 愛知県新城市 穂積亮次市長来館（村上理事長他）
- 7/21 ▶ 公益認定等委員会 馬場真一朗参事官補佐訪問（武田常務理事、入江常勤参与）
- 7/22 ▶ 李鉄民元文化事業部長来館（村上理事長、王理事）
- 7/25 ▶ 中国大使館 薛劍参事官面会（武田常務理事、王理事）
▶ 社日本電氣技術者協会 宮田専務理事訪問（村上理事長）

● 行事参加、その他の活動

- 7/14～7/16 ▶ 村上理事長訪中 中国美術家協会 陶勤秘書長・恭王府弁公室 劉占文副主任との懇談会
現代中国美術展 借受作品点検作業立ち合い
- 7/22 ▶ 第17回BESETO美術祭東京展開幕式・オープニングパーティー
▶ 国際交流基金 中国高校生長期招へい事業 第五期生 報告会・レセプション
(村上理事長、武田常務理事)